

氏名 綾田 善行
授与した学位 博士
専攻分野の名称 医学
学位授与番号 博 甲第 6990 号
学位授与の日付 2024 年 3 月 25 日
学位授与の要件 医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻
(学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目 Immunohistochemistry for IRTA1 and MNDA helps differentiate gastric MALT lymphoma from chronic gastritis/reactive lymphocyte hyperplasia
(IRTA1 及び MNDA の免疫組織化学が胃 MALT リンパ腫と慢性胃炎/反応性リンパ過形成の鑑別において有用である)

論文審査委員 教授 松川昭博 教授 森実 真 准教授 松岡賢市

学位論文内容の要旨

[緒言]胃 MALT リンパ腫の生検組織診断において、胃 MALT リンパ腫と慢性胃炎 (CG) または反応性リンパ過形成 (RLH) などの非腫瘍性病変との鑑別はしばしば困難となる。近年、IRTA1 および MNDA の免疫組織化学が辺縁帯リンパ腫の病理学的診断に利用されるようになった。本研究では、胃 MALT リンパ腫と CG/RLH の病理組織学的鑑別における IRTA1 および MNDA の免疫組織化学の有用性を明らかにすることを目的とした。[方法]胃生検検体 81 例 (Wotherspoon grade (WG) 1, 11 例; WG 2, 9 例; WG 3, 20 例; WG 4, 31 例; WG 5, 10 例) について、PCR 法による IgH 遺伝子再構成の検索を併用した既報のアルゴリズムに従って、CG/RLH (55 例)、MALT リンパ腫 (19 例) 群、判別困難例 (7 例) の 3 群に分類した。CG/RLH 群と MALT リンパ腫群における IRTA-1 と MNDA の免疫組織化学の発現の観察および解析を行なった。[結果] CG/RLH 群に比べて MALT リンパ腫群では、IRTA1 と MNDA の免疫組織化学の陽性率がいずれも有意に高値であった (IRTA1: 43.5% vs 0%; $p < 0.0001$, MNDA: 55.1% vs 32.4%; $p = 0.0044$)。[結語]胃 MALT リンパ腫と CG/RLH の鑑別における IRTA1 と MNDA の免疫組織化学の有用性が示唆された。

論文審査結果の要旨

胃の生検組織診断において、胃 MALT リンパ腫と慢性胃炎 (CG) または反応性リンパ過形成 (RLH) などの非腫瘍性病変との鑑別はしばしば困難となる。申請者は、胃 MALT リンパ腫と CG/RLH の病理組織学的鑑別における IRTA1 および MNDA の免疫組織化学の有用性を明らかにするため、胃生検検体 81 例 (Wotherspoon grade (WG) 1, 11 例; WG 2, 9 例; WG 3, 20 例; WG 4, 31 例; WG 5, 10 例) を CG/RLH (55 例)、MALT リンパ腫 (19 例) 群、判別困難例 (7 例) の 3 群に分類し、IRTA-1 と MNDA の発現を免疫組織化学的に解析した。その結果、CG/RLH 群に比べて MALT リンパ腫群では、IRTA1 と MNDA の免疫組織化学の陽性率がいずれも有意に高値であることを見出し、カットオフ値を提唱した。WG の 5 群間での比較では有意な結果はなく、全体の症例数は少ないものの、胃 MALT リンパ腫と CG/RLH の鑑別における IRTA1 と MNDA の免疫組織化学の有用性を示したことは評価できる。

よって、本研究者は博士 (医学) の学位を得る資格があると認める。